

はしもと

〈病院理念〉

地域に根づいた患者様に信頼される病院づくり

〈基本方針〉

～心のかよう病院を目指して～

患者様のため、まごころの医療を目指します
地域の皆様から信頼される病院づくりに努めます
常に新しく良質な医療ができるように心がけます
皆様の健康増進、疾病予防のお役に立ちたいと願っております

〈病院運営のコンセプト〉

1. 気づきの医療
2. わかりやすさ



回復期リハビリテーション病棟

回復期リハビリテーション病棟の看護師の役割

- ・リハビリで獲得した能力を実生活で生かせるように「できるADL」から「してるADL」へと支援します。食事・排泄・入浴・移動・更衣などすべての生活支援を実生活に結び付けるように援助しています。
- ・障害の需要に関しての精神的サポートを行います。
- ・患者様のご家族様から適切な支援が受けられるように、ご家族様に対して援助します。
(介護指導、精神的サポート)



回復期リハビリテーション病棟の方針

当院では回復期リハビリテーション病棟方針に基づきケアを行っています。

1. 患者様とご家族様と共に考えたゴールに向かってリハビリテーションを行います
2. 病棟生活すべてをリハビリテーションと考え、各職種が専門性を発揮し、連携をとり、情報を共有し個々の患者様に適したADL・IADL動作の改善と習得を目指します
3. 衣・食・寝・排泄は別々に、家庭復帰を目指したリハビリテーションを行います
 - 1) 起床時と就寝時には更衣を行います
 - 2) オムツをなくし、排泄はトイレで行います
 - 3) 食事は全員食堂で、椅子に座ってとります
 - 4) 食事の後は歯磨き、口腔ケアを行います
 - 5) 入浴は可能な限り行います
 - 6) 「手を出しすぎず、目を離さずに」が病棟ADLの基本です
 - 7) 自立の気持ちを大切に、自立を目指した援助を行います
4. 臥床時間を減らして体力・筋力・耐久性・活動性の向上を目指します

※ ADL = 日常生活動作、IADL = 手段的日常生活動作



認知症治療病棟

認知症を知る

“MCI”について



1) MCI (Mild Cognitive Impairment) とは？

健常者と認知症の中間にあたる、軽度認知障害のことをいいます。MCIを放置すると、認知機能の低下が続きます。

MCIから認知症に症状が進展する人の割合は年平均で10%と言われています。

2) MCIの5つの定義

- ① 記憶障害の訴えが本人または家族から認められている
- ② 日常生活動作は正常
- ③ 全般的な認知機能は正常
- ④ 認知症ではない
- ⑤ 年齢や教育レベルの影響のみでは説明できない記憶障害が存在する

3) 早期発見の重要性！！

早期にMCIに気づき、適切な治療・予防をすることで、症状の進行を防止、遅延したりすることがあります。

4) 認知症になりにくい生活習慣

- ① 食習慣：野菜、果物をよく食べる
- ② 運動習慣：週3日以上の有酸素運動を行う
- ③ 対人接触：人とよくお付き合いをする
- ④ 知的行動習慣：文章を書く、読む
- ⑤ 睡眠習慣：30分未満の昼寝
起床後2時間以内に太陽の光を浴びる

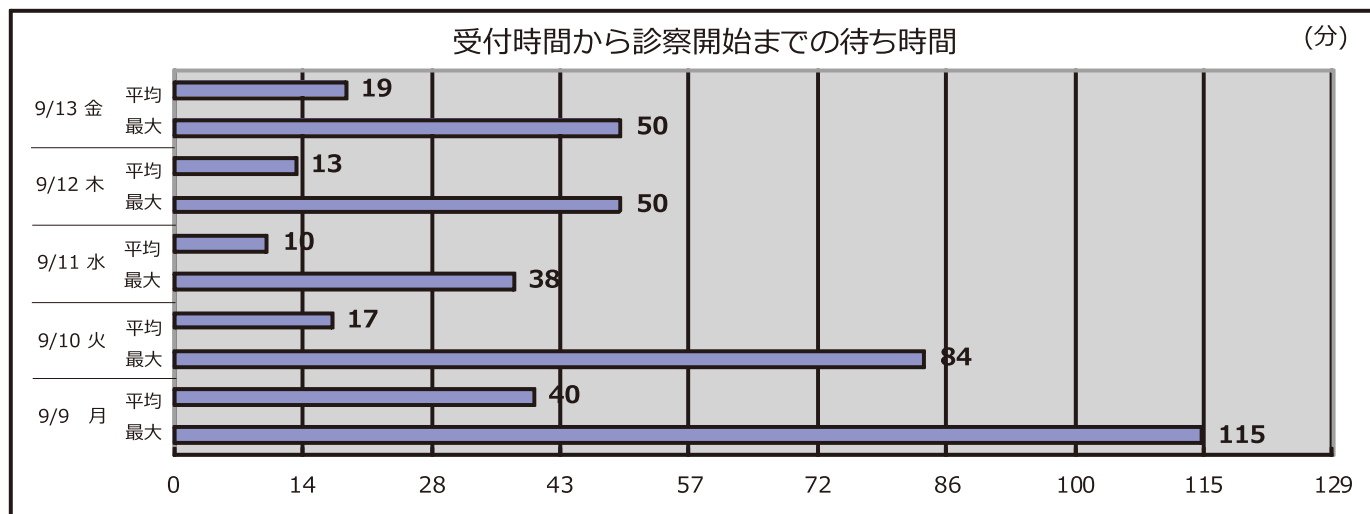


患者サービス委員会

患者サービス委員会では定期的に「外来待ち時間調査」を実施しています。

病院に行くとき待ち時間が長くて疲れたり次の予定があったりで、大変な経験をした方も多くいるのではないのでしょうか。当院では待ち時間調査を実施することで、少しでも待ち時間が短くなるよう努力しています。

当院では待合所に雑誌や新聞、マッサージチェアを用意していますので待ち時間にご活用ください。今回は9月に実施した「外来待ち時間調査」をご紹介します。



平均は40分以内でしたが、最大2時間の日もありました。今後、待ち時間が発生する時には、『只今患者様が多くお待ち頂くようになります』など声かけを行ったり、待ち時間を少なくするために予約の取り方も考慮します。

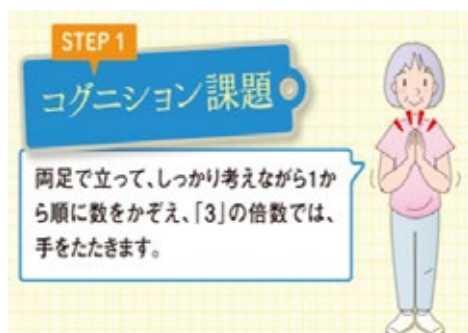
家族会

「作業療法士による家族会」 (主催：回復期リハビリテーション病棟)

開催日：2019年9月21日 (土) テーマ：「認知症と物忘れ」

現在、日本全体が超高齢化社会で4人に1人が65歳以上の時代になっており、認知症はなじみのある病気になっています。しかし名前を聞いたことがあってもどのような病気であるかを知っている人は少なく、漠然とした不安を抱えている人が多いと思います。そこで私たち作業療法士が、認知症と物忘れの違いや、予防医療の観点から、充実した生活を過ごすための運動・食事・認知活動などの方法についてお話ししました。

その中でもコグニサイズという運動と認知課題を組み込ませたものはテレビでも取り上げられることが増えており「頭と体」を一緒に使うことで認知症予防に役立つことが期待されています。参加者の皆様と一緒にいき、参加者様からは「難しいけど意外と楽しい」「これなら続けられそう」と意見を頂きました。



認知症に気付くことができるのは身近にいるご家族です。年齢を重ねると身体や頭の機能は低下していきませんが、そのまましておくのではなく、小さな変化に気付いて予防が行えるようにしていくことでより良い生活を送ることができます。そのサポートを私たち作業療法士もお手伝いさせていただきますのでいつでもお声掛けください。



通所リハビリテーションセンターはしもと

＊ 家族会 ＊

通所リハビリは、利用者様、家族様、スタッフとの交流の場を持ち、より良い信頼関係を築く為、家族会を開催しています。毎回テーマを持って開催していますが、今回は『**令**』。新元号となり心機一転。これまでとは趣向を変えて、スタッフが主体となった催しから、利用者様・家族様が体を使って参加できる内容を増やしました。

「笑いヨガ」「運んで繋いでボールリレー」「ドンパン節&炭坑節」などで、たくさん笑って、遊んで、踊って、利用者様、家族様とも楽しく過ごして頂けたようでした。

施設の見学は随時受け付けております。お気軽にどうぞ。

＜お問い合わせ＞ TEL：0875-63-3700 担当：西山 寿美子



＊ 見学会 ＊

家族様のご都合に合わせて、一週間の期間で見学会を開催しています。リハビリや普段の利用時の様子が見学でき、家族様も安心感が得られたようです。



拘束廃止普及委員会

拘束廃止普及委員会は、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護職など多職種で構成された委員会です。入院患者様に対して身体拘束を行わないための取り組みを話し合い、啓発活動等を行っています。

一人一人の患者様が豊かで安全、安心できる快適な入院生活が送れるように医療、看護、介護を提供します。

また、入院生活においては身体的拘束等をしない取り組みを行い、患者様の自主的な行動や活動を援助する働きかけをします。



当院での拘束をしないための取り組み

スタッフ全員が共通の問題意識を持ち日々努力しています。点滴・経管栄養等のチューブ類を自己抜去する危険性がある患者様にはスタッフが見守りを行っています。歩行が不安定な患者様の転倒、ベッドからの転落予防にはセンサーマットや足元の滑り止めマットの設置、ベッドを低くするなどして対応しています。

しかし、生命に関わる危険性があり代替ができない場合に限り、ご家族の方に同意を得て期間限定で対応しています。

その後、週1回カンファレンスを行い評価し早期に拘束は取り除きます。患者様のご家族に対しては、入院時に身体拘束に対する基本的な考え方や転倒事故の防止策や対応方針を十分説明し理解と協力を得るようにしています。



橋本病院指定居宅介護支援事業所

介護支援専門員（ケアマネジャー）の役割について

ケアマネジャーの介護保険制度上の正式名称は「介護支援専門員」です。日常的には、“ケアマネ”、“ケアマネジャー”と呼ばれています。ケアマネジャーは、「**要介護者や要支援者の方の相談や心身の状況に応じて、介護サービスを受けられるように、介護サービス等の提供についての計画（ケアプラン）の作成や、市町村・サービス事業所・施設、家族などの連絡調整を行う者**」とされています。

＊ 介護支援専門員が属する事業所は大きく分けて3つ ＊

1. 居宅介護支援事業所に属するケアマネジャー

「居宅ケアマネ」とも呼ばれ、自宅で暮らす要介護、または要支援の方に対してケアプランを作ります。ケアプラン作成後は、担当の利用者宅を月に1回は訪問し、困り事や心身の状態はどうかを確認し、必要時には随時ケアプランを変更し、自宅での生活が継続出来るように関わります。



2. 介護保健施設に属するケアマネジャー

「施設ケアマネ」とも呼ばれ、介護保険施設に入居している高齢者に対してケアプランを作ります。基本的な仕事内容は居宅介護支援事業所と似ていますが、ケアプラン対象者の方が勤務先で生活しているため、心身の状態を間近でいつも見られるところに特徴があります。また介護職、看護職などが同じ職場であるため情報収集がしやすい利点もあります。

3. 地域包括支援センターに属するケアマネジャー

地域包括支援センターは、地域住民の心身の健康・生活安定のために必要な援助を行う機関です。ここでのケアマネジャーの仕事は、「介護予防ケアマネジメント」です。これは介護が必要な状態にならない事を目標にしたケアプランで、「要支援」認定を受けた方が対象となります。また、介護保険を使わない元気な高齢者の相談や、その他の高齢者問題、地域のケアマネジャーの相談を受けるなど、「高齢者のお困りごと相談所」のような役割を担っています。こうしたことから、地域包括支援センターで働く主任介護支援専門員には、多種多様な経験と高度な知識が望まれる事となります。



防火防災委員会

2019年11月5日 県民一斉地震防災行動訓練

11月5日、県民一斉地震防災訓練（香川県シェイクアウト訓練）が行われました。

当院でも患者様・スタッフを含め一斉に訓練を行いました。

地震が発生した時は、まず自分の身を守る事が大切です。どうすれば安全を確保できるのか、訓練に参加し、家庭や学校・職場など、普段の生活場所での防災について考えるきっかけになればと思っています。

シェイクアウトは、2008年アメリカのカリフォルニア州で始まった地震防災訓練です。この訓練の特徴は、地震を想定し、安全行動の「1-2-3」を行うという、安全行動への一斉参加を住民に呼びかけることにあります。

- 安全行動の「1-2-3」
1. **Drop（ドロップ）** = 姿勢を低く
 2. **Cover（カバー）** = 体・頭を守って
 3. **Hold on（ホールドオン）** = 揺れが収まるまでじっとして



安全行動の「1-2-3」はあくまで基本行動です。シェイクアウトをきっかけにして、防災訓練や備蓄品の確認などプラスワン訓練も行う事でより一層、防災への関心を高めてほしいと思います。



健康教室

香川県理学療法士会健康増進部様からの依頼で健康教室を行いました。

日時：2019年9月12日（木）10:00～11:00

場所：池の向公民館（三豊市）



講義内容は認知症についてでした。参加者は15名（男性7名、女性8名）で、20分程度の座学に加え、コグニサイズを実施しました。コグニサイズは座ってできる運動、立ってできる運動を実施し、笑いながら楽しくできました。終わった後も活発に質問があり、とても活気あるサロンでした。



中学生職場体験学習

三豊中学校、和光中学校から、それぞれ2年生2名の職場体験学習がありました。

それぞれ生徒の希望に沿い、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、看護師、介護士、事務等の病院の仕事を体験して頂きました。



体験内容は、それぞれの医療職の専門的な仕事を見学したり、一緒に行えることは実施して頂きました。

最初は緊張した面持ちでしたが、3日間の体験と会話やふれあいなど通し、次第に患者様と打ち解け、楽しくお話しもできるようになりました。

お礼状が届きましたので、一部抜粋してご紹介致します。

私たちもこのお手紙を頂き、感激致しました。

今後も医療職として働く励みとしていきたいと思えます。



三豊中学校 2019年 9月11日～13日
和光中学校 2019年10月29日～31日



～ 中学生からのお礼状 一部抜粋 ～

今回の体験で学んだことは、どんなに忙しくても手を抜かず、大切に仕事をするということです。

スタッフの方も忙しくて疲れていると思うのに、それを感じられないように、いつも優しく対応してすごいなと思いました。自分の将来の夢を実現させるのは大変だと思います。が、これから頑張っていきたいと思えます。

ミニコンサート

2019年9月30日に、シンガーソングライターとして活躍されている香川裕光様がボランティアとして病院に来てくださいました。歌の上手な方が来られると聞き、たくさんの患者様が期待に胸を躍らせ参加されました。

楽曲はご自身で作られたものから、患者様も良く聴いたことのある有名な曲をアレンジしたもので様々でした。知っている曲もあったことから一緒に歌うことでとても盛り上がり、参加されている方にとって良い一日となりました。



日本作業療法士協会

第53回日本作業療法学会

会期：2019年9月6日（金）～8日（日）

会場：福岡国際会議場／福岡サンパレスホテル&ホール



「注意機能と栄養指標の関係 – tranilmakingtestと血液生化学検査の検証 –」
作業療法士 熊谷強

「回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の自宅復帰に必要な
運動FIMの予測式」 作業療法士 萩原智和

「脳卒中患者におけるトイレ内動作に影響するバランスおよび
認知能力に関する研究」 作業療法士 和田悠



当院からは臨床研究を中心に、3演題発表させて頂きました。全国で活躍する作業療法士の先生の多種多様な視点での研究報告や症例報告を聞くことができ、最新の作業療法の考え方やアプローチを学ぶことができました。この学会で学んだ知識・技術を当院の患者様に還元できるよう、今後も努めてまいりたいと思います。

日本神経理学療法学会

第17回日本神経理学療法学会学術大会

会期：2019年9月28日（土）～29日（日）

会場：パシフィコ横浜会議センター



「太極拳が姿勢制御および歩行機能に有効であった一症例」
理学療法士 森拓人

「BAD患者における回復期リハビリテーション病棟での治療成績
–皮質脊髄路損傷の関係性を検討して–」 理学療法士 小林亮輔

「脳卒中患者の歩行予後における認知関連行動アセスメント
(Cognitive-Related Behavioral Assessment) の有用性の検討」 理学療法士 片岡麻衣



当院からは臨床研究や症例発表を含め、3演題発表させて頂きました。森岡周先生、上月正博先生をはじめ、著名な先生方の講演を聞くこともでき、最新の神経理学療法の考え方や治療戦略を学ぶことができました。この場で学んだ知識・技術を当院の患者様に還元できるよう、今後も努めてまいりたいと思います。

ふれあい夜市

ふれあい夜市KANONJI2019

開催日：2019年9月28日（土）

会場：ハイスタッフホール（観音寺市民会館）
まちなか交流駐車場



当院のスタッフ（PT1名、OT3名、ST1名）のバンドが出演しました。1人が複数の楽器やボーカルをこなして驚きました。夜市といいながら14時から演奏だったのでお客さんはまばらでしたが、ボランティアスタッフとして参加している当院のスタッフや患者様が応援に来てくださり大いに盛り上がりました。

病院実績



回復期リハビリテーション病棟 合計89床 (1病棟29床、2病棟60床)



2019年度 前期 実績

年月	平均入院患者数 (人)		平均在院日数 (日)		在宅復帰率 (%)		発症から入院までの平均日数 (日)					実績指数	
	1病棟 (29床)	2病棟 (60床)	1病棟 (29床)	2病棟 (60床)	1病棟 (29床)	2病棟 (60床)	脳血管		運動器		廃用 症候群	1ヶ月	6ヶ月
							180日	150日	90日	60日			
4月	28.9	59.9	68	86	84.4	77.3	46	34	37	30	34	51	48
5月	28.9	59.3	77	77	84.4	76.3	37	33	30	—	25	46	48
6月	29.0	59.4	72	78	83.0	79.0	33	31	30	—	23	43	46
7月	27.9	57.7	80	81	82.2	80.7	8	26	20	22	5	48	47
8月	28.6	59.1	85	95	86.2	81.1	22	31	16	—	57	43	47
9月	28.5	59.2	85	90	86.4	79.6	25	19	17	—	33	50	47

地域連携部

本年も多くの方に橋本病院をお選び頂き、ありがとうございます。入院前に急性期病院へお伺いする **事前訪問** の2019年9月～10月の実績を紹介します。

	紹介件数	紹介から訪問	紹介から入院
9月	23件	4.3日	8.9日
10月	37件	5.4日	10.3日

事前訪問から入院までの日数は、平均5.0日(1～14日)です。

リハビリテーションは「365日」「1日3時間」

提供させていただきます。また、多職種によるチーム医療で、早期に退院できるように取り組んでいます。



回復期リハビリテーション病棟の対象となる方

1. 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷の発症又は手術後、義肢装着訓練を要する状態から2ヶ月以内。高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷の発症から2ヶ月以内。
2. 多肢の骨折、大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の骨折もしくは手術後から2ヶ月以内。
3. 外科的手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後から2ヶ月以内。
4. 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は関節の神経、筋又は靭帯損傷後の1ヶ月以内。
5. 股関節又は膝関節の置換術後の状態の1ヶ月以内。

入院相談はいつでもお気軽にご連絡ください!

橋本病院 地域連携部

窓口：大西 宏美

電話：0875-63-3552 (直通)
0875-63-3311 (代表)

認知症治療病棟への入院相談もお伺いしております。お気軽にご連絡ください。



医療法人社団和風会 橋本病院
〒768-0103
香川県三豊市山本町財田西902番地1
TEL：0875-63-3311
FAX：0875-63-2651
入院相談直通電話：0875-63-3552
E-mail：wafukai@gaea.ocn.ne.jp
HP：http://www.wafukai-hashimoto.jp
発行元：橋本病院 広報委員会

医療 回復期リハビリテーション病棟 89床
認知症治療病棟 67床

介護 橋本病院指定居宅介護支援事業所
通所リハビリテーションセンターはしもと
訪問リハビリテーションセンターはしもと

